

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720375

研究課題名(和文) 地理的知の成立と観光の関わりに関する研究

研究課題名(英文) Study on the relationship between the establishment of geographical knowledge system and tourism industry

研究代表者

森 正人(Mori, Masato)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号：10372541

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近代において地理的な情報が蓄積されていくプロセスが、どのように観光と結びついてきたのかを明らかにする研究である。四国遍路、日本の国内観光、日本人の身体性のほか、フクシマの放射能汚染情報とブラックツーリズムの関係についても議論した。成果として、書籍が3冊、雑誌論文が3本、寄稿論文が4本のほか、翻訳書が1冊、国際学会での発表6回、国内の学会発表を2回行った。

研究成果の概要(英文)：This project examined the relationship between the accumulation of geographical knowledges and the establishment of tourism industry. This project exemplified the modernity and postmodernity of Shikoku Henro pilgrimage, domestic tourism industry after the 1920s in Japan, body and affect in Japanese society, and radiation leakage and 'black tourism' in Fukushima. The reseaches resulted in the publication of three books, three refereed articles, four contributed papers to books, one translation book (from English to Japanese), six presentation papers in international conferences, and two presentation papers in conferences in Japan.

研究分野：文化地理学

キーワード：地理学 近代性 観光 四国遍路 景観

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 個人的な学術的背景

申請者は2010年に『昭和旅行誌 雑誌「旅」を読む』(中央公論新社)を出版し、そこで近代において発生した余暇時間がどのように国家や資本によって管理・調整され、そのなかで特定の風景や場所が観光地として表象されてきたのか、そこでの適切な行為が推奨されてきたのかを検討した。これは近代的な地理的な情報(地理的知)の蓄積と流通に関する問題であった。そこで近代における地理情報の集積過程をより広範に検討するため、本研究を申請した。

### (2) 学術的背景

1980年代後半に英語圏人文地理学を中心に展開した地理的表象の議論では、おもに言語をとおして他所の情報がどのように提示されてきたのか、それがどのような権力と結びついてきたのかを明らかにしてきた。それは1990年代初頭より日本の人文地理学においても大きな問題の一つとして取り上げられるようになった。とりわけ、他所の地理的表象と権力との問題は観光という側面においてははっきりと現れることから、観光は重要な研究題材となった。

地理表象は地理的知の蓄積と分節化をとおして生産される。そしてこの地理的知は諸種の制度をとおして活用、応用されることで人々の実践を調整、管理してきた。すなわち制度的実践、地理的知、権力の問題である。しかしながら英語圏においても日本の人文地理学においてもこの三つの結びつきについてはまだ検討の余地を残したままであり、これを明らかにすることは1980年代からの地理表象の議論をさらに豊かにしていくことにつながると考えた。

そこで、日本の近代化、観光と地理的知の集積を明らかにする本研究を申請した。

## 2. 研究の目的

地理情報は、地理学をはじめとするさまざまな諸制度や諸実践をとおして獲得されたものであり、同時にその消費をとおして新たな経済活動や政策などが生み出される役割を果たしていると考えられる。このような制度や実践をとおして蓄積される地理情報を本研究課題では「地理的知」と呼ぶ。

本研究課題はこのような現代社会における地理的情報の蓄積過程を、英語圏における地理的知の成立過程と近代観光の関係性についての研究をふまえて批判的に検討することを目的とする。

近代観光の発祥は英国である。したがって、英国の資料も収集し、比較することによって日本の観光システムの特徴を理解する。そのために英国のダラム大学地理学部と連携し

ながら研究を進める。

## 3. 研究の方法

本研究ではこれまで出版された旅行雑誌を収集し、分析した。収集した雑誌は次のとおりである。

『旅』日本文化旅行協会

『ツーリスト』ジャパン・ツーリスト・ビューロー

『山岳』日本山岳会

『修学旅行』日本修学旅行協会

これらの雑誌を、国立国会図書館、日本修学旅行協会などで複写し、収集し、分析を加えた。また、この分析結果から日本独自の近代性を演繹した。

また、当初の研究計画にはなかったが、福島県における原発事故がもたらした地理的情報の錯綜、それによる「フクシマ」なるものへの心象地理の変化も、聞き取り調査や雑誌記事の分析から明らかにした。

日本の近代はヨーロッパに於けるそれを模範とした。したがって、英国に於ける近代と観光、および地理情報収集を参考にするため、イギリスダラム大学にて共同研究を行った。

各年度の研究の進展状況を次に記す。

### 平成24年度

5月、6月に国立国会図書館、東京都立図書館中央館で、ジャパン・ツーリスト・ビューロー発行の『ツーリスト』、日本山岳会の『山岳』の関連記事を収集し、簡単な分析を行った。

この分析と、研究の枠組みを、8月にハンガリーのプラハで開催された国際歴史地理学会、同月にドイツのケルンで開催された国際地理学会議においてそれぞれ発表し、議論した。

9月より翌年8月まで、イギリスのダラム大学地理学部に滞在し、共同研究者であり、世界的に著名な観光地理学研究者でもあるマイク・クラング教授、ディヴィア・トーリア＝ケリー教授と意見交換、研究計画の提案のほか、具体的な論文作成を行った。非公式に地理学部において研究発表を英語でも行った。

この年度、イギリスの風景や歴史と観光に関する書籍を出版した。

### 平成25年度

4月にアメリカ地理学会、8月に国際地理学者会議、12月には香港での社会正義のワークショップにて、英語で発表を行った。2月、3月に東京都にある日本修学旅行協会を訪問し、機関紙『修学旅行』の雑誌記事収集を行った。

さらに3月に英語圏を代表する著名な地理学者であるドリーン・マッシー氏を日本に招聘し、空間と資本との関係に関する議論を行っ

た。  
この年度には、身体と資本化に関する書籍を一冊出版した。

#### 平成 26 年度

最終年度に当たるこの年度には、夏季に再度、イギリスダラム大学において、関連する文献の収集を行い、マイク・クラング教授、ディヴィア・トーリア＝ケリー教授と今後の研究計画についての打ち合わせもあわせて行った。

この年は、科研のプロジェクトで得た知見を広く日本の地理学に還元するために、日本語での学会発表を 2 回行った。また、6 月と 7 月には国際学会、ワークショップで英語の発表を行った。

12 月には研究内容を広く社会に還元するために、四国遍路と近代性に関する新書を刊行した。

#### 4. 研究成果

分析結果は国内の学会で 2 回、英語による国際学会で 8 回、発表した。また、日本語のレフェリー誌に 1、英語の国際レフェリー誌に 2 本の論文が掲載された。このほか、観光に関する書籍に 4 本の論文を寄稿した。

研究成果を広く社会に還元するため、4 冊の著書を出版した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

Masato Mori Geographies of precarious condition in the post-Fukushima (Dialogues in Human Geography March 2015 5: 122-124,) 査読あり

森 正人「祈りの意味・物質・身体 四国遍路の政治学」(『史林』98-1、史学研究会、2015 年、143-171 頁) 査読あり

Masato Mori The Localness, Materiality, and Visuality of Landscape in Japan (Jimbun-chiri, 66-6, pp.34-47, 2014) 査読あり

森 正人「パフォーマンス」(大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2014 年、138-143 頁) 査読なし

森 正人「ヘリテージツーリズム」(大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2014 年、204-207 頁) 査読なし

森 正人「ツーリズム空間の生産」(人文

地理学会編『人文地理学事典』丸善出版、2013 年、536-537 頁) 査読あり

森 正人「四国遍路とホスピタリティ」(青木義英・神田孝治・吉田道代編『ホスピタリティ入門』新曜社、2013 年、18-25 頁) 査読なし

森 正人「巡礼の近代性 西国三十三箇所巡礼競争」(『人文論叢』29 号、三重大学人文学部、2012 年、45-55 頁) 査読なし

[学会発表](計 10 件)

森 正人「モビリティ、マテリアリティ、アフェクト」(2014 年度人文地理学会大会、広島大学(広島県東広島市) 2014 年 11 月 8 日)

森 正人「Geography Matters! 関係性の中の自然・空間・場所」(第 116 回地理思想研究部会、神戸大学梅田サテライト(大阪府大阪市) 2014 年 7 月 27 日)

Masato Mori Justice and ethics of/ after Fukushima (7th EARCAG Osaka, 大阪市立大学(大阪府大阪市) 2014 年 7 月 25 日)

Masato Mori Modernity, Materiality and Religious Meaning of the Henro Pilgrimage (The Comparative Analysis of Pilgrimage and Sacred Sites Workshop、筑波大学東京キャンパス(東京都文京区) 2014 年 5 月 25 日)

Masato Mori (Im)mobility and Citizenship: Social Injustice in the Cities after the Disaster of Fukushima in Japan」(The Workshop On Social Justice and the City, Hong Kong (中国) 2013 年 12 月)

Masato Mori Ideology, feminised women body and Sexual desire in Japan: examining woman magazine Shufu-no-Tomo (IGU Regional Conference 2013, 京都国際会議所(京都府京都市) 2013 年 8 月 7 日)

Masato Mori Visuality of nature (IGU Regional Conference 2013, 京都国際会議所(京都府京都市) 2013 年 8 月 5 日)

Masato Mori Ideology, feminised women body and Sexual desire in Japan: examining woman magazine Shufu-no-Tomo (AAG Conference 2013, Los Angeles (アメリカ) 2013 年 4 月 9 日)

Masato Mori Racialising nation through sensibilities of hate in Japan (32nd IGC, University of Cologne, Cologne(ドイツ),

2012年8月30日)

Masato Mori Nationhood and biopolitics  
in the Post war Japan (15 th International  
Conference of Historical Geography, カレル  
大学 (Prague, Czech Republic), 2012年  
8月10日)

〔図書〕(計4件)

森 正人 『四国遍路 八十八ヶ所の歴史と  
文化』(224頁、中公新書、2014年12月)

森 正人 『ハゲに悩む 劣等感の社会史』  
(224頁、ちくま新書、2013年4月)

森 正人 『英国風景の変貌 恐怖の森から  
美の風景へ』(251頁、里文出版、2012年6  
月)

森 正人 『歴史発見! ロンドン案内』(190  
頁、洋泉社、2012年5月)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

森 正人 (MORI, Masato)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号: 10372541